

第二次苫小牧市中小企業振興計画素案

3 事業継続のための経営基盤の強化・販路拡大の推進

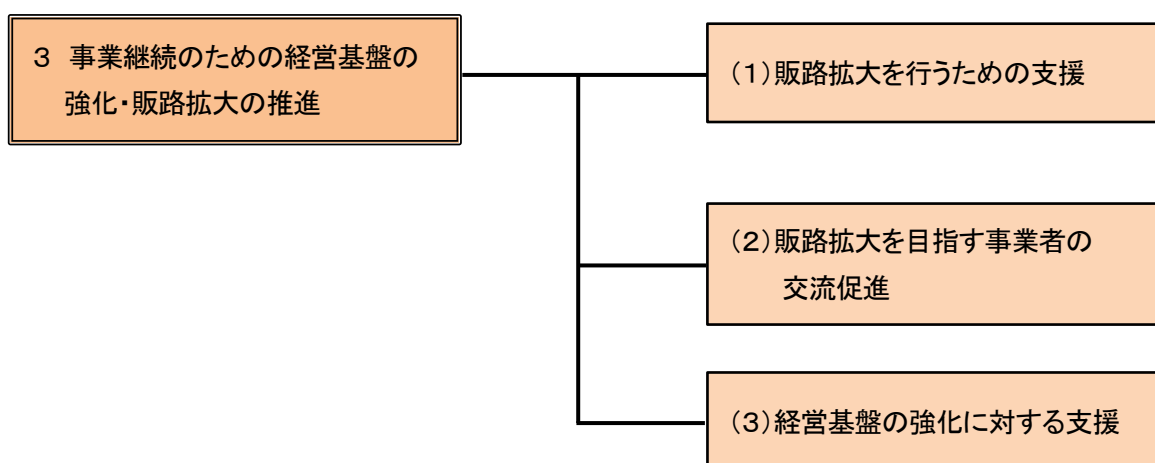
現状と課題

長引く景気低迷に加え、新型コロナウイルス感染症は、本市の中小・小規模事業者の事業継続に深刻な影響を及ぼしております。少子高齢化・人口減少が進み消費の縮小が続く中、専門家や金融機関等から継続的な支援を受けられることで、経営改善、販路拡大、新事業の展開等に加えて、急速に移行しているデジタル化の流れにも対応できるように、事業継続のための経営基盤の強化や、販路拡大を推進することが必要となっております。

基本目標

伴走型の支援や専門家の派遣、ICTを活用した販路拡大など、経営基盤の強化や販路拡大につながる支援を進め、本市の中小・小規模事業者が事業継続できる環境づくりを目指します。

施策の体系



主要支援策

(1) 販路拡大を行うための支援

- ① E C 販売^{*}やサイト構築等の I C T 活用を推進します。
(例： I C T 化推進コミュニティ創出事業等)
- ② 事業者の経営分析や事業戦略の必要性について明確にし、伴走型による支援を実施します。
(例： 苫小牧商工会議所による経営発達支援計画の推進等)

(2) 販路拡大を目指す事業者の交流促進

- ① 異業種コミュニティが広がる場にて、集積する事業展開を行います。
(例： C-base プレインキューベーション施設、市内コワーキングスペース等の活用)
- ② 商談会等、販路が広がるきっかけを多く展開します。
(例： 苫小牧市立地企業サポート事業、三者事業でのセミナー開催等)

(3) 経営基盤の強化に対する支援

- ① 本市の融資制度の周知を図り、中小企業の経営を支援します。
(例： 苫小牧市中小企業融資制度等)
- ② 事業者が事業継続のために必要な手段に対し、支援策を展開します。
(例： 苫小牧商工会議所による経営発達支援計画の推進等)
- ③ 新サービスの構築や新製品の開発等に必要な支援策を展開します。
(例： 苫小牧イノベーション活性化事業補助金等)

評価指標 (いずれも単年度)

指 標	R2年度 (*基準値)	R5年度 (見込み)	R9年度 (目標値)
経営発達支援計画に係る伴走型支援活用件数	一 件	10 件	20 件
苫小牧市立地企業サポート事業 補助件数 (うち事業拡大・販路拡大支援事業)	11 件	15 件	20 件
三者事業販路拡大セミナー参加者数	25 人	40 人	60 人

※ 令和3年度の実績を基準値とするが、まだ数字が出てないため令和2年度の実績を掲載する。

※ 主な事業については、中小企業振興計画別冊を参照。

3 販路拡大及び需要開拓の促進

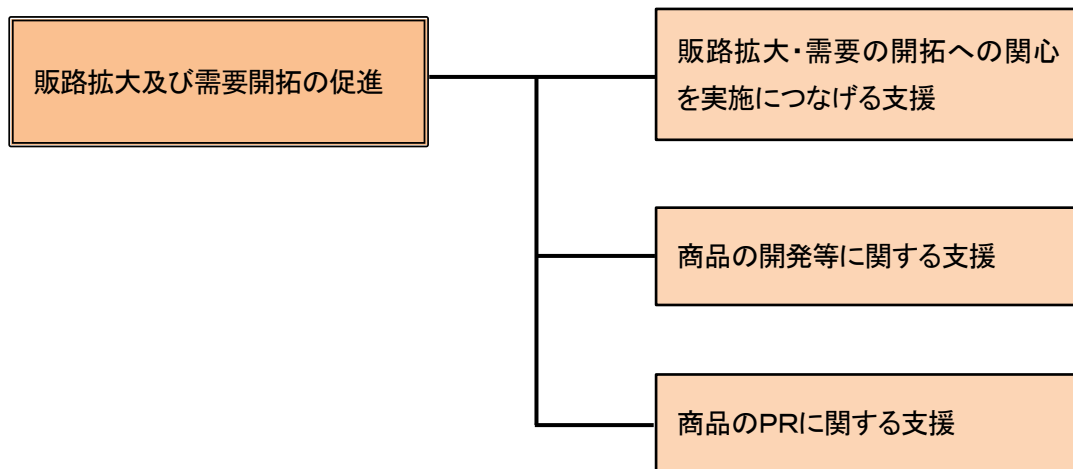
現状と課題

中小企業の長期的な事業継続のためには、販路拡大・需要の開拓が必要です。しかし、人口の減少等に伴う需要や消費の縮小が続く中、販路拡大や需要開拓に踏み切ることができない中小企業が増えています。

基本目標

中小企業が抱える課題に応じた支援を展開し、中小企業が販路拡大・需要の開拓に挑戦できる環境づくりを目指します。

施策の体系



主要支援策

(1) 販路拡大・需要の開拓への関心を実施につなげる支援

- ①セミナーの開催などにより販路拡大・需要の開拓の重要性について周知し、販路拡大・需要の開拓に関心がある中小企業を後押しします。

(2) 商品の開発等に関する支援

- ①マーケティング調査等に要する費用補助など、消費者動向等に的確に対応した商品やサービスの開発等が行えるよう支援します。
- ②商品の開発等につながる支援機関、関係団体を積極的に周知し、利用促進を図ります。
- ③商品の開発等にかかる新しい発想や独自性を引き出すためのセミナーを開催します。

(3) 商品のPRに関する支援

- ①PR方法に関するセミナーの開催や広告費用補助などの支援を行い、積極的な情報発信を促します。

評価指標

指 標	H28年度 (*基準値)	H30年度 (見込み)	H34年度 (目標値)
販路拡大セミナー 受講者数	—	10人	30人
販路拡大に係る相談件数	30件	40件	60件
商談会・展示会等の支援策利用件数	12件	16件	20件

※平成28年度の実績を基準値とする。

主な事業 ※詳細は別冊を参照

- 事業拡大・販路拡大支援事業
- 販路拡大セミナーの開催
- 広告宣伝に関する支援(予定) など